アジア・アフリカ ラテンアメリカ

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2015年7月1日　No.660

今月の読み物

■2面　「戦争立法」
■3面　シンポジウムの報告
■4～5面　パネリストの発言
■6面　会場発言
■7面　コーディネーターのまとめ
■8面　列島AALA、私とAALA

5・24国際シンポジウム

「東アジア共同体」への確信と連帯が広がる

▲24日―満席の国連大学ウ・タント国際会議場

◀23日―歓迎レセプション（前進座の舞）

▼23日―パネリストのみなさんが準備中の日本AALAの事務所を訪問

心はひとつ 歓迎と交流

広がる闘いの輪

ヒットラーばりの
ファッショ的暴挙を許すな
違憲の「戦争立法」は、廃案しかない

国会前集会で

「戦争法案」が大きな局面にさしかかっています。この法案の最大の問題点は、アメリカの無法な先制攻撃に自衛隊を参戦させることです。また、私たちが創立以来すすめてきた、憲法を生かす非核、中立の日本の道を決定的に踏み外すだけでなく、世界ですすんでいる平和と協力の共同体つくりの努力に反するものです。

国会での論戦に呼応し国会包囲や各地での抗議行動がつづけられ、国民世論と運動は安倍内閣を追いつめています。衆議院憲法審査会で3人の憲法学者は「安全保障関連法案は憲法違反」と表明。さらに6月15日、「安全保障関連法案に反対する学者の会」は記者会見し、約2700人の学者・研究者の「『戦争する国』へすすむ安全保障関連法案に反対します」のアピールに賛同していると発表しました。時事通信6月の世論調査では、「法案反対」と「今国会にこだわらず慎重に審議」が合わせて8割に上っています。

力を合わせて廃案に向けてがんばりましょう！

この重大な局面で、日本AALAと各県AALAは組織の総力を結集して「戦争法案」廃案にむけた運動を広げましょう。そのために、次のことをしましょう。

①法案撤回の抗議文をあげ、自民党、公明党に送付しましょう
②一人ひとりの会員がファックスやメールで抗議・反対の声を国会に届けましょう
③国会前の抗議行動、集会などに積極的に参加しましょう
④各県・地域で協力・共同を広げ、集会、パレード、学習会などを広げましょう
⑤国民との対話を広げ、「戦争法案の」危険な正体と狙いを伝えましょう。また、対話を通じて「戦争するな！どの国も」の国際署名を広げましょう

大阪都構想葬る

党派を超えた共同で、戦争立法勢力に痛打

政令指定都市大阪を廃止・解体して、その財源でムダな大型開発をねらった「大阪都構想」は、5月17日の住民投票で否決され、大阪市の存続が決まりました。0・8ポイントの僅差に示されるように、だれもが初めて経験する大激戦、大接戦でした。大阪はもとより、国政全体にも影響する歴史的な勝利だと言えます。全国各県AALAからのご声援に、あらためてお礼申し上げます。

橋下・維新の会は、ありもしない「二重行政のムダ」を解消すれば住民サービスが向上するとか、なるはずのない「大阪都」にすれば東京一極集中を克服して大阪の経済が活性化するなどという大ウソを、政党助成金数億円を投じたテレビコマーシャルや数度にわたる新聞折り込み広告など物量作戦を展開しました。これに対して私たちは、路地裏宣伝やきめ細かい対話をすすめ、草の根・網の目のたたかいで世論を広げました。党派を超えた共同がすすみ、共産党・自民党・民主党の合同の街頭演説会や「街かど懇談会」が行われました。AALAも加わった平和友好団体の統一行動も3度にわたって行われました。

この勝利は、安倍・橋下の「改憲タッグ」と戦争立法勢力に痛打を浴びせました。また、ファシズムとクーデター、彼らが必ず企てる謀略とたたかううえで貴重な教訓を残したと言えます。

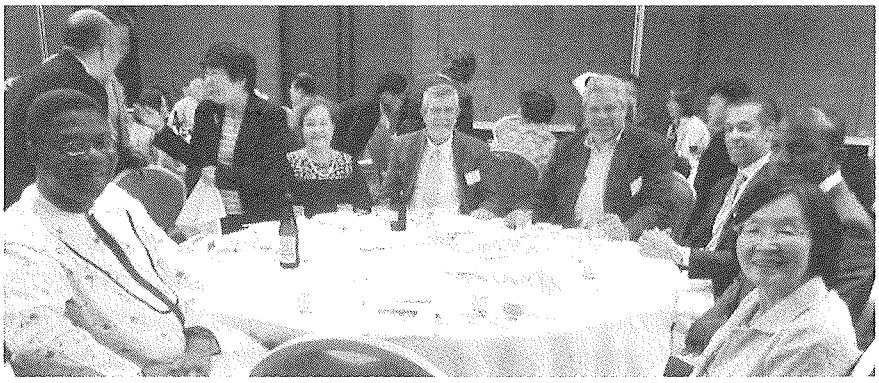
（大阪AALA理事長　澤田有）

シンポの報告

本部と地域AALA、内外の方々の協力でシンポに350人、レセプションに100人超

日本AALAは2013年7月大会で「平和の共同体」建設に努力する方針を打ち出しました。その方針にもとづき、共同体の学習、各国外交団との話し合い、ASEAN訪問、「知りたかったアセアン」の発行と普及、全国縦断学習講演会、国際署名など運動を展開してきました。そして、1年前から、「平和・協力・繁栄の東アジア共同体」の展望を話し合う国際シンポジウム開催の準備をし、開催に漕ぎつけました。

国際シンポジウムは、入念な準備、会員の努力、内外の方々のご協力で大成功しました。参加者はシンポジウムには満席の350人、前日のレセプションは100名を超えました。8カ国の駐日大使館から大使などが参加されました。詳しい内容は作成予定の「記録集」でご報告しますが、概要を報告します。



レセプションに参加の外交団のみなさん

■主な日程

22日…4人のパネリストが来日
23日…パネリストとコーディネーターなどとシンポの運営の打合せ。同時通訳の方々との打ち合わせ
18:00から歓迎と連帯のレセプション
＊運営委員会は終日、会場などの準備。
24日…9:30～17:30シンポジウム
18:30～パネリストや運営に尽力したメンバーの夕食会。
25日…外国のパネリストの方々を都内ツアーに案内。お別れの会
26日…外国のパネリスト帰国

熱気あふれ、充実したシンポジウム

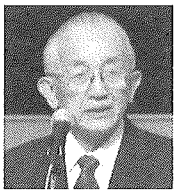
国際シンポジウムは、定刻の9時30分に、長尾ゆり全労連副議長の総合司会ではじまりました。

長尾ゆりさん

内外の第一線で活躍するパネリストの良く準備された発言、熟達したコーディネーターの進行、第一級の同時通訳を得て、内容はわかりやすく要を得たものになり、展望と勇気をあたえてくれました。また、参加者の発言も大変感銘をよびました。パネリストの方々からは、熱心に話を聞いている参加者やゆきとどいた準備と運営に感動したとの感想をいただきました。このようにしてシンポは大成功し、時間通り17時30分に閉会しました。

主催者あいさつ

小松崎榮（日本AALA代表理事）



世界はいま、非核・非同盟、平和・協力の地域共同体の構築の方向に動いています。しかし、東アジアには、なお貧困や環境問題などの課題が山積。先鋭的な意見の対立、紛争や武力衝突も散発、戦争に発展する事を危惧するみかたもあります。この解決には、平和・協力・繁栄・非核アジアの共同体の建設がもとめられています。この課題を縦横に語り合っていただき、これからの探求と運動に生かしたいと思います。

賛同者あいさつ

進藤栄一（国際アジア共同体学会代表）

「アメリカの世紀」が終焉し、いま「アジアの世紀」が登場しつづけています。その世紀のかたちが、バンドン会議の精神のなかに込められています。いま、求められているのは、不信と不毛の軍拡しか生み出さない日米安保条約の呪縛から自身を解き放つことです。歴史を正視し、生まれはじめたAECを東アジア共同体へとつなげ、地域統合の共生の意味をつくること。そこにバンドン60年目の新世界が展開するはずです。

（シンポジウムのプログラムより）

東アジア共同体の展望の礎を さまざまな角度から示し確信を広げた発言

パネリスト、コーディネーター、同時通訳の見事なアンサンブルで、シンポジウムは参加者に確信をあたえました。パネリストの第一発言のポイントを編集委員会の責任でご紹介します。

平和こそ、すべての人類の夢 ―戦争をタブーに

中国・南京大学教授　劉　成さん

国や文化の違いや多様性は重要であるが、いま必要なのは、統合、普遍性あるいは横断性に焦点を当てることだと力説されました。そのうえで、

①中国人と日本人の違いが強調されるが、むしろ共通する部分の方が多い。相違は単なる時間差であるとも考えられる。違いを戦争の原因にするのはおかしい

②ジグソーパズルのように小さな部分がすべてつながらないと全体は完成しない。すべての国、宗教などの協力が必要

③政治のレベルではたくさんの紛争と対立があるが、円卓での話し合いや地域協力が解決につながる

④平和と非暴力はいっしょである。非暴力でないと平和にならない。信頼がないと非暴力にならない

最後に、戦争は絶対に許さない、タブーにすることが必要だと強調し、平和は世界人類共通の夢だと結びました。

平和への脅威には対話と外交で対処

インドネシア・ハビビセンター　ASEAN 研究計画責任者
アフマド・イブラヒム・アルムタキさん

インドネシアのマルティ外相（当時）が、東アジアとアジア・太平洋地域の緊張と不安感の出現を指摘し、事実として、日中間の紛争や日本の新国家安全保障戦略、安倍首相の憲法改定への願望と戦争犯罪の否定、靖国神社参拝、北朝鮮の核実験、南シナ海の紛争などを例示した事を紹介しました。そのうえで、東南アジアやインドネシアの歴史、ASEAN の歩みを率直に振り返り、現在のインドネシアや ASEAN の方針を次のように披歴されました。

①問題を軍事的手段で解決することは、国益に有害であるという厳正な事実がある

② ASEAN 共同体づくりの重点は、集団防衛同盟を必要としない。平和の共同体の包括的な概念を支持する多国間主義と規範に基づくアプローチを貫くことに重点を置く

③平和への脅威には対話や外交という平和的手段で対処し、すべての当事者を排除しない

そのうえで、この地域の諸政府が外交的な懸念に気を取られないですめば、国内の平和と安定と繁栄のために時間とエネルギーを注ぐことができると結びました。

世界の動きから東アジア共同体の可能性をよむ

日本共産党副委員長　緒方　靖夫さん

東アジア共同体を展望するうえで、東南アジア諸国連合（ASEAN）の48年にわたる経験そのものが、その現実性を示しているとして、次のように可能性等を述べられました。

①米ロ中や日韓など18カ国も参加して開催された東アジア首脳会議（EAS）の「バリ宣言」（11年）では「内政不干渉」「武力行使の放棄」「紛争の平和的解決」などの原則が列記され、東アジア共同体発足の際に安全保障の核心となる合意がすでにある

②その展望をひらく際に、日中韓の関係がカギになる。安倍政権の歴史認識は、東アジアの不安定要因といわれる深刻な問題になっている。また、米国は中国問題で、安倍政権とは一線を画し、日本には際限のない軍事的要求を押し付けながら、中国との平和的、外交的解決を求めている

③日本共産党は北東アジア平和協力構想を提起し、関係国や政党に働きかけているが、その現実性を感じている。韓国の朴槿恵大統領の提唱した構想とも重なり、日米安保が存在するもとでも行動できる

最後に ASEAN や CELAC の設立を、世界で普遍性を持つ動きとして紹介して展望を示しました。

アジアの再興から東アジア共同体を

慶應義塾大学教授　大西　広さん

アジアの発展と米国や西側の力関係の変化が、経済の力によって起き、国際紛争や西欧での排外主義の増大という否定的出来事が起きていることを指摘。中国の力の増大にたいして、「それとどう対抗するか」という枠組みでしかみないと、限りない米国追随に陥ると述べました。しかし長い視点でみれば、冷戦崩壊後、分裂を克服するよい変化も起きていると強調。「アジアの力の増大は必然的にアジアの相互依存を深め、共同体の動かしがたい基礎となる」とのべました。そのうえで中国を脅威としかみない日本政府の対応は大きなジレンマをかかえているとしていくつかの例をあげました。

①中国との対抗にアメリカを引き込むために、日米安保、TPP など米国の要求を受け入れ続けている

②中国がよびかけたアジアインフラ投資銀行（AIIB）に、日本政府が加盟しないことに財界が衝撃を受けている

③大学に日の丸を掲げさせようという政府方針に、日経新聞がグローバル化にそぐわないと反対の社説を出した

そのうえで、一点共闘が盛んだが、誰が日本経済の邪魔をしているかが明白ないま、この論点でアプローチするのも興味があると述べました。

韓国、日本、中国、北朝鮮の平和と協力が 東アジア共同体構想の中核

韓国・ソウル大学日本研究所研究部長　南　基正さん

「東アジア共同体構想と日韓関係には接点があります」と切り出し、

①「勝共統一」が国是であった時代の韓国は、アジアやバンドン会議を「冷遇」していた

② 1990 年代になりアジアを積極的な眼差しでみるようになった

③ 21 世紀をまたいで金大中大統領は、日本、中国、北朝鮮、米国などに対し積極的に動き、朝鮮半島の平和構築と東アジアの共同体構築が具体化しはじめた。

④ 2005 年は東アジア首脳会議も発足した

しかし、日米同盟主義者たちの反発、小泉首相の靖国参拝、第一次安倍首相の価値観外交、中国の反発と米中二強による秩序形成優先の思惑などから、東アジア共同体論議は失速したなどと説明しました。

そのうえで、韓国、日本、中国、北朝鮮の平和と協力が東アジア共同体構想の中核、特に日韓関係が核心だと述べました。そして、日韓共同宣言、南北共同宣言、日朝平壌宣言が平和と繁栄の東アジア共同体構築の礎となり、その中心が日韓関係だと結ばれました。

バンドン精神は、平和と繁栄のために 協力と発展を育み、励ますエンジン

ベトナム・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯協力委員会副会長
グエン・バン・フインさん

バンドン精神には、①異なる政治体制の平和的共存、紛争の平和的解決へ国連憲章に基づくすべての国の独立②諸国間の連帯と協力という２つの主要点があることを指摘しました。そして、バンドン会議は、民族自決を求めるたたかいに質的変化をもたらし、アジア・アフリカ諸国で民族意識と国際連帯をめざめさせたこと。植民地主義は基本的にとりのぞかれ、非同盟運動が生まれ発展し、国連で 77 カ国グループ（G77）が形成され、世界的な舞台における役割は高まっていることを紹介。バンドン精神とその平和共存、紛争の平和的解決の原則は、ますます重要になっており、平和・発展・協力の傾向を世界の主流にするうえでもっとも重要な推進力であると強調しました。同時に、バンドン精神の旅は良いことずくめではなく、

①軍事紛争、自然災害といった課題に向き合ってきたこと

②東南アジアでは南シナ海情勢が複雑なこと

③北東アジアでは領土と主権をめぐる紛争や朝鮮半島の核問題があること

などを例証し、しかし、そのなかでの ASEAN 共同体構築はバンドン精神の具体的な前進であること、核兵器のない平和と安定の地域、協力、発展と繁栄の地域を築く要求が主たる趨勢であり、バンドン精神は、世界に全ての地域、全ての国に平和と繁栄のための協力と発展を育み、励ますエンジンであり続けるでしょうと結ばれました。

会場発言　シンポの趣旨をふまえ、実践に裏打ちされ感動と共感を呼んだ会場発言

会場からは希望者全員の13人の方が、各6分づつ発言をしました。実践に裏打ちされ、シンポジウムの趣旨に合致する内容で、感動と共感をよびました。発言の骨子をご紹介します。

（順番は発言順。敬称略）

●米田佐代子（NPO平塚らいてうの会）

平和共同体構築の実際の中身の議論を深めていく必要がある。その際ジェンダーの視点を中軸に据えて検討を。2000年国連安保理決議1325号が重要。女性の参加を主流にして平和構築を実現したい。

●井上哲士（日本共産党参議院議員）

4月訪米で安倍首相は「我々は米国とともに冷戦に勝利した」と発言、同時に戦争立法の今夏の成立を約束した。軍事に拠らない平和の共同体構築の立場から戦争立法の国会論戦に臨みたい。

●高橋美枝子（横田基地の撤去を求める西多摩の会）

首都東京の横田基地は、戦争司令部になっている。C130の危険な飛行、パラシュート訓練、MVオスプレイが飛来。この5月CVオスプレイの配備が通告された。今後も座り込みなど抗議行動を続けたい。

●有吉節子（京都AALA）

京都市議の後、非同盟運動を続けるAALAの活動に参加。200人の組織にしたい。大学に班をつくり、留学生など若者を迎えたい。NPT会議には、詩吟の生徒、町内会、実家の寺の檀家から署名・カンパを集約。

●吉村駿一（全国地域人権運動総連合）

戦争法案は国民的反撃で臨み、紛争は平和的解決が憲法に合致している。戦争は最大の人権侵害であり、日本は人権後進国です。バンドン10原則で人権思想を発展させ、「平和の抑止力」としたい。

●北村　実（早稲田大学名誉教授）

日・中・韓の友好関係を作るうえで日中、日韓、中韓にはそれぞれ課題がある。日本は歴史修正主義を排し、ドイツのように誠実に謝罪をすべき。安倍政権の一国ナショナリズムを平和の共同体構築で超克したい。

●窪田一忠（横田基地の撤去を求める西多摩の会）

日米軍事同盟は馬鹿げたもの。映画「ザ思いやり予算」の上映とバクレイ監督の話を聞く会を開催。CVオスプレイの配備は日本全土の訓練場化であり、配備反対を貫きたい。平和の共同体構築で平和の世界を。

●山本富士夫（福井AALA）

福井AALAは2006年に発足し、7人から100人近い会になった。原発に反対する人が加入している。金儲けのため原発をやろうとするのは民主主義の破壊。子孫に負担を残す原発再稼働は許さない。

●吉澤文寿（新潟AALA）

平和の共同体を東アジアで作るには北朝鮮問題、日朝国交正常化が求められる。戦後70年、日本の歴史認識は日韓国交回復50周年を冷え切らせている。日韓方式でなく日朝関係を見る必要がある。

●澤田　有（大阪AALA）

大阪都構想否決は大阪市民の共同の勝利。南シナ海での紛争、異常気象など様々な課題がある中で、国際署名を進めることが重要。TAC型の条約が必要。反核、憲法擁護と並ぶ三大平和署名として広げよう。

●吉川春子（「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナール）

1991年の「慰安婦」金学順さんの証言を聞き、参院議員として日本政府の加害責任追及と解決を求めてきた。「慰安婦」問題は議員の質のメルクマール。彼女たちは80代後半だ。解決のため運動を続けたい。

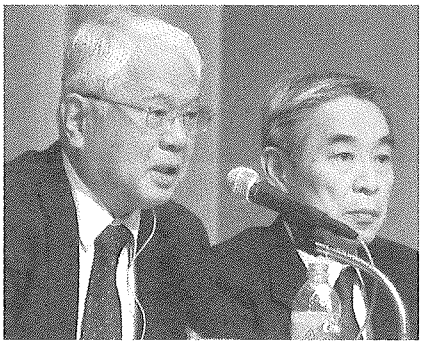
●山口博一（文教大学元教授）

①拉致問題、②核・ミサイル問題、③経済援助問題の3点でロードマップを2年後に作成。日本と北朝鮮にそれぞれ代表部を置いて交渉を開始する。日韓、日中間の領土問題解決が急がれる。

●アラン・ハンター（英国コベントリー大学教授）

バンドン会議から、英、独、仏、米などは教訓を学ぶべき。現在の不平等、多極化は貧困を生み、若者が想像力を発揮できない。アジアの文化に目を向けるべき。平和の共同体こそが重要である。

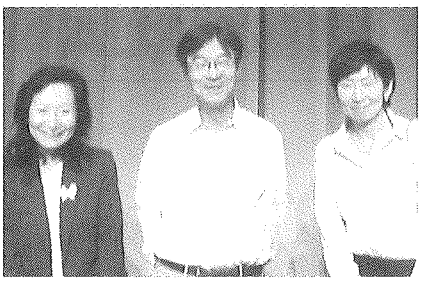
コーディネーター（新藤通弘常任理事、田中靖宏常任理事）のまとめの発言



左から新藤通弘さん、田中靖宏さん

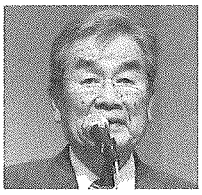
●豊かな内容の議論が交わされました。フロアからの発言もよかったです。質問も正面からうけとめて誠心誠意答えてくれたことに感激しました。アジアの変化を全体的にとらえることの大切さ、アジアの変化の中身と性格が明らかになりました。混沌とする世界情勢の中で、あえて「東アジア共同体」のを旗を高く掲げた実施したが、確信を実感できました。各国の違いは時間差、過程の問題だということもわかり、自信を持って共同体建設にむけて語っていけます。安倍の軍事同盟にしがみつく覇権の争いは時代おくれだということを確信しました。

●東アジアの国は多様だが、一様に平和を求めています。そのためにはこのようなアプローチがあると語られました。バンドン会議や非同盟運動で確認されてきたことは、国家間の対等平等の原則です。また、アジアの歴史的伝統は、「全員賛成」でなく「誰も反対しない」ことです。そのため何回も話し合いをつみあげています。最後に、素晴らしい同時通訳の方々にお礼を申し上げます。



同時通訳のみなさん。左から鶴田知佳子さん、友田淳二さん、永井恵理さん

閉会のあいさつ



澤田有常任理事

今回のシンポの成功の意義は大変大きいと思います。パネリストをはじめご協力、ご参加くださった方々にお礼を申し上げます。東アジアの平和の共同体に障害になる安倍内閣の戦争立法に反対するたたかいを進めましょう。また、今日の成果を地域に還流するなど、AALA の活動を広げましょう。

外国のパネリストの感想

25 日のお別れの懇談会で、外国のパネリスト４人に感想を述べていただきました。その大要を掲載します。

劉成氏

最高の訪問になった。友好、平和の思いをいちばん感じた。350 人の参加に驚いた。みんな活動的だ。

午後になると半分は帰ってしまうのに、それがない。居眠りしている人もいない。シンポの組織がすばらしい。会場からの発言も感動的で素晴らしかった。今日のツアーは非常に素晴らしかった。船から景色を眺めて平和を感じた。平和のクルージングだ。忘れられない。AALA の一員に加盟したいと思う。南京に来たときは、知らせてください。いろいろお世話をします。

グエン・バン・フィン氏

家族といっしょに生活しているようだった。友情とあたたかなもてなしに感動した。平和を愛する気持ち、連帯の気持ちを感じた。何回も日本に来たが、平和と友好の気持ちが続いている。平和と友好の灯をつけて迎えてくれた。新しい準備をして、継続するように努力している。日本の友人をベトナムに迎えたい。

南基正氏

劉氏がすべて話した。あたたかなもてなしをうけて、また、勉強になった。生きてゆくための大きな財産になった。平和の思いが実行できるとの信念になった。恩返しになにをしたらよいか考えた。韓国 AALA をつくりたいが、当面は平和の絆をつなげたい。がらりと変わるぐらいの体験になった。AALA を知る前と後ではまったく違う。平和の領域をひろげることで恩返しをしたい。

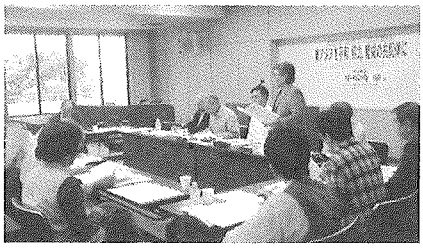
アフマド・イブラヒム・アルムタキ氏

すべて語られた。シンポは大きな成果を得た。すべての人に有益なシンポだった。多くの情報を得られた。持ち帰りすべてを伝えたい。はじめ神経質になっていた。すぐれた人たちといっしょにいられたことが、うれしかった。みなさんは、あたたかで祖父のような感じだ。

列島AALA

兵庫

4年ぶりに 34回総会を開催



講演会のあとの総会の様子

1962年、沖縄に次いで全国で2番目に創設された兵庫県AALA。63年には貫名美隆会長が、第3回AA諸国人民連帯大会に参加するなど先輩達の築いてきた歴史の継承をと、昨年9月に臨時体を確認して歩みをはじめました。

①会議の定例化②日本AALA機関紙の発送と兵庫県版隔月発行③約2年分の請求書の発行など決めました。決めたことを実行して改めて兵庫県AALAの伝統は生きていたと実感しました。

寄せられた会費・新聞代は166万円、日本AALA3年分納入・家賃や共闘分担金など全額納入でき、34回総会を理事全員の心を合わせ準備してきました。

情勢は「戦争立法」廃案の正念場を迎え、いま、活動再開の責務を果たさなければと、小さな歩みでも一歩を踏み出し、日本AALAの国際シンポ・国際署名の推進のスタートラインに立ちました。

総会には第1部で30人が集まり、日本AALA小松崎代表の記念講演。第2部で経過報告・決算報告・運動方針・若手の理事の補強もできて出発しました。

会員も2人増え、元気よく「アジアを知る連続講座」（仮題）を準備中です。

（事務局長　井村弘子）

京都

講演会と総会を開催 新事務局長に辻崎忠由氏

京都AALAは6月4日、第38回定期総会をひらき、14年度の活動報告と財政報告、15年度の方針と予算を決め、15年度の役員を選びました。

講演会の様子

新4役は次のとおり。運営委員長・本田久美子、副運営委員長・西山正一郎、澤居紀充（新）、事務局長・辻崎忠由（新）、事務局次長・堀内浩、藤田徳子（新）。

新年度の重点課題として、①平和の対案（東アジア共同体）についての多様なとりくみ―シンポジウム、学習懇談会、研究等、②組織の拡大・強化―会員を早期に200人突破、さらに250人をめざし、大学や労働組合への働きかけ、京町家を会場にした多彩な企画、などをあげています。

なお定期総会恒例の記念講演は、新藤通弘氏の「平和と主権を希求する中南米・カリブ海諸国―ベネズエラ・キューバ問題を中心に―」で、諸行事の重なった日曜日でしたが、37人が参加しました。　（副運営委員長 澤居紀充）

視野は世界に、活動は足下から

兵庫県AALA創設の貫名美隆会長の意思を継いで、現在の兵庫県AALA貫名初子会長に推されて、アフリカケニアの「国際婦人年最終年NGOフォーラム」に日本代表団の1人として参加した1985年。以後「アマンドラのとりくみ」「アパルトヘイと撤廃のとりくみ」「南米の代表の歓迎のつどい」などに接し、元事務局長の上田氏や内倉氏などに誘われ理事を引き受けたのが数年前でした。

私は満州引揚者（生まれて2週間）で母に残留孤児になるところだった話を聞いて育ちました。かねてから「戦争と貧困」「核廃絶」の活動をライフワークにと思っていました。「視野は世界に、活動は足下から」をモットーに、兵庫県AALAの重責を果たせるか不安ですが、私の最後の楽しく意義ある人生になれたらと引き受けました。学ぶことがよろこびです。よろしくお願いします。

編集・発行
日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会　JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA SOLIDARITY COMMITTEE
住所　〒160-0022 東京都新宿区新宿2-11-7 第33宮庭ビル4階
電話：03（5363）3470　HomePage　http://www.japan-aala.org/
FAX：03（3357）6255　E-mail：info@japan-aala.org
振替　00110-6-72434　毎月1回1日発行1部150円（送料62円）